

府中町ふるさと歴史散歩

〔第1回〕

寺屋敷跡
(葉王寺跡)

今年に入って府中町教育委

員会から寺屋敷跡の整備事業

で古地図入りの案内板を設置

したとの連絡があり、現地を

実際に観る機会を得た。寺屋

敷跡は、かれこれ27年前に

なるうか、府中町史編纂の先

生方と共に水分峠側から草摺

の滝を経て、安芸郡内一の高

峰呉々々山の中腹を指し

て藪をかき分けて登ったのが

最初であった。今は、山の尾

根伝いに林道が造られ、寺屋

敷跡のすぐ傍まで行くことが

できる。

腹部に山門と塀をめぐらせた

中に大師堂や五重塔を含む数

棟の建物が描かれている。

『芸州府中荘誌』(菅原守編)

の道隆寺の由来によると、寺

屋敷は、今から約100年前の大

同元年(806年)弘法大師が開

いた府白山無量寿院葉王寺跡

といわれ、正暦年間(990-995)

に藤原道隆によって桑多山安

芸院道隆寺として建立される

まで、その前身として約100年

間、信仰を集めていたものと思

われる。平安時代の山岳仏

教の寺院として一時は隆盛を

きわめたと伝えられているが、

葉王寺が山ふところ深くあつ

たためお参りできない人々が、

麓の供花堂に花を供えたところ

が、花立という地名として

残されたとされている。寺

屋敷跡は雑木林の中に石垣し

か残っていないが、町の文化

財として大切に保存していき

たいものである。

府中町には、この他にも私

たちの先人が遺した多くの文

化財があります。これらの文

化財は府中町の風土と歴史的

伝統の中で育まれ大切に継承

されてきたものです。生活環

境や生活様式の急激な変化の

中であって、先人たちが歩ん

できた歴史とその文化財を大

切に保存し、これを文化遺産

として後世に伝えることが肝

要です。これらの文化財の保

存と活用には、広く町民の理

解と協力を得ることが大切です。

府中町文化財保護審議会

会長 横田 禎 昭

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272

寺屋敷跡

